

第55回 日本の介護技術を指導

昨年11月、上海浦東新区民生局より地域の養老院やデイサービスの管理者を集めるので、日本の介護技術や知識ノウハウを指導して欲しいという要望があり実施させて頂きました。参加人数は総勢48名。講師は日本からケアマネジャー1名、介護福祉士2名、PT 2名を派遣しました。期間は12日間、実習内容は、身体介護や生活援助、ケアプラン作成方法、自立支援型機能訓練、レクリエーション等を実施、期間中の交流密度は非常に有意義なものとなり、多くの事を学び、多くの問題点に気付く事が出来ました。

まず、デイサービスでは、軽度のみ受入れ。機能訓練や介護技術は、ほぼ必要ないという意見を多くの実習生から頂きました。とはいえ、機能訓練が今後不可欠な中で残存機能維持向上技術を学ぶ場がありません。レクに関してもバリエーションに乏しく、中でも生活リハに結びつく考え方は皆無でした。

次に施設研修ですが、A DL維持向上に結び付くサ



▶研修の様子

「生活リハに結びつくレクを」

ービス提供ではなく、とにかく決まった時間に実施するのみという印象です。福祉用具の種類も少なく、ある物に關しても十分に活用しきれ

ていません。生活リハの必要性や転倒等リスク回避、また相互負担軽減目的の意味も十分に教育されていないのが現状でした。

上海駐在生活で感じた事として、当方が出会った中国の方の大半は日常生活においても予測をして行動する事が少ないように感じます。介護においても、その予測を「老いていく事」に対するリスクとして、自立支援に結びつける事が重要

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス社長
松山英樹

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

